

野川の「流域水循環」

第5期野川流域連絡会水環境分科会活動記録



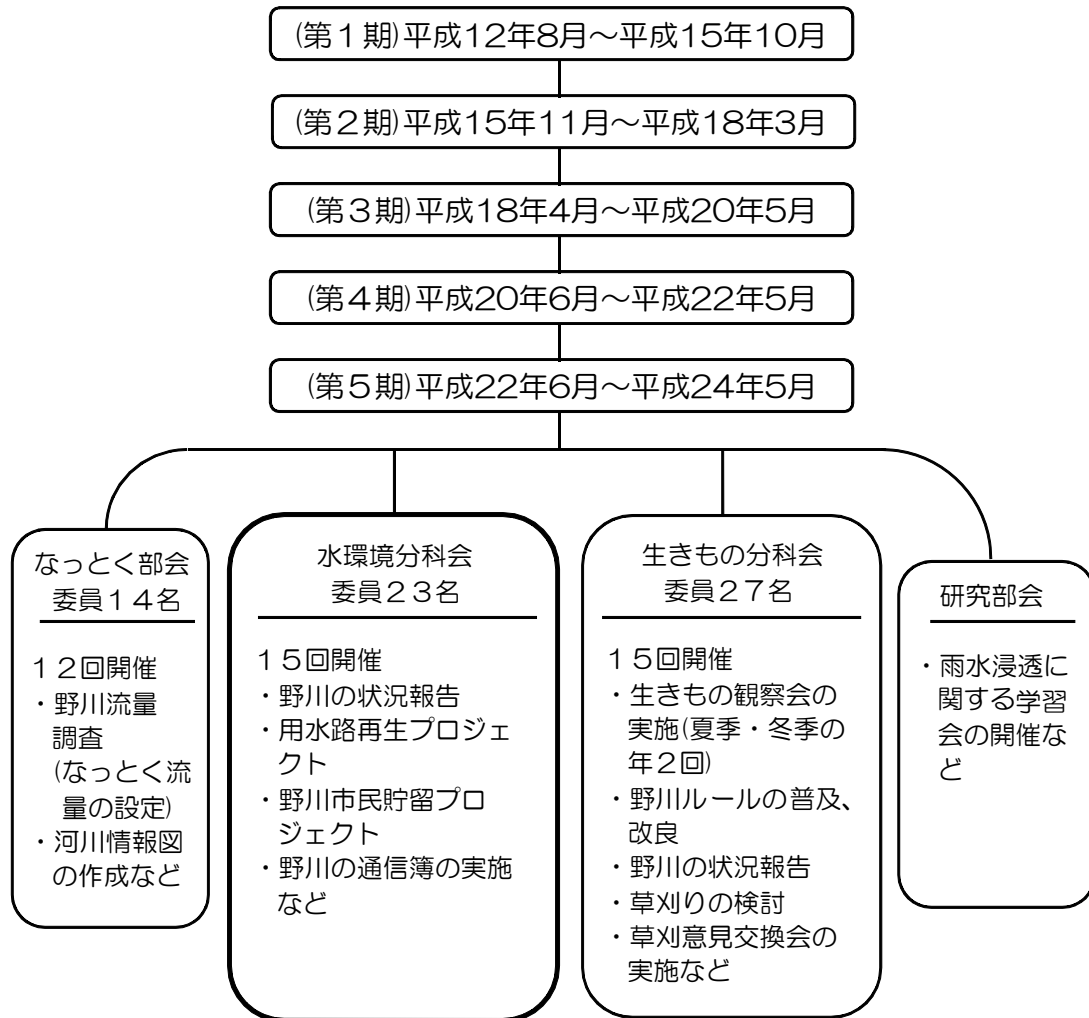
平成24年5月
野川流域連絡会

野川流域連絡会及び水環境分科会について

○野川流域連絡会について

「野川流域連絡会」は流域住民、野川に関心を持って活動している団体の代表者、都及び流域自治体の職員等が、“野川を地域に活かした親しめる川にする”ため、情報や意見の交換、提案等を行うことを目的に、平成12年8月に設置されています。

平成22年6月から第5期目がスタートし、現在、都民委員18名・団体代表委員12名、行政委員20名、計50名が、水環境分科会と生き物分科会を中心に活動しています。



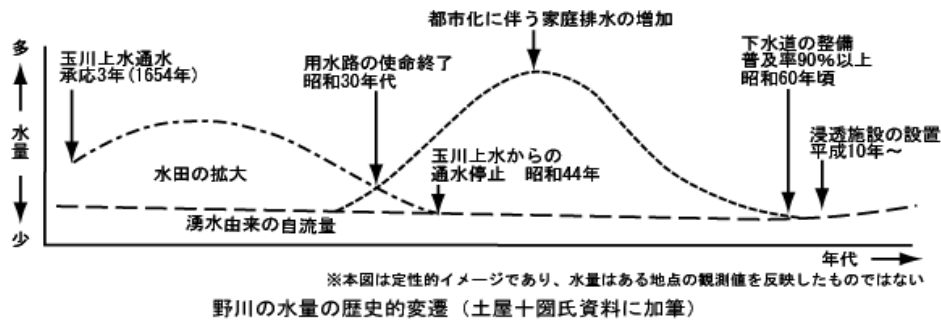
野川の水涸れとその対策

○水涸れ

野川は近年、開発等による湧水地点、湧水量の減少、地下水位の低下などによって、降水量の少ない年には、上流部で水流が途絶える、いわゆる瀬切れ現象など、深刻な水不足状態に陥っています。

○野川の流量の変遷

かつて玉川上水の分水が野川に流入していた頃は、水量は豊かでしたが、昭和30年代以降、流域の水田の減少に伴い、灌漑用水路としての使命を終え、水量は減少しました。その後、都市化の進展に伴い、家庭雑排水の増加によってどぶ川化し、流量は増加しましたが、下水道の整備、普及に伴い、水質は改善されるとともに、水量は再び減少しました。



今年の野川の渇水は異常事態です
「野川流域連絡会」
水量分科会・水質分科会・生きもの分科会

2004年8月25日

野川は、今、かつてないほどの渇水となっており、灌漑用水路の半分ほどが涸れて水が流れていない状態です。渇水の原因は、降水量の減少と、灌漑用水路の老朽化による漏水の増加によるものです。渇水の原因は、降水量の減少と、灌漑用水路の老朽化による漏水の増加によるものです。渇水の原因は、降水量の減少と、灌漑用水路の老朽化による漏水の増加によるものです。

渇水の原因は一つではありません!! 市民と行政が協力してできるだけ早く行動しましょう!!

今年の降水量が異常に少ないことが主たる原因ですが、野川の渇水は十数年前から始まり、年々ひどくなっています。雨が降れば回復するという一時的な現象と誤解できる状況ではなそうです。その他、渇水の原因としては流域の都市化に伴い、農地や畑地など雨水が地下へ浸透する区域が減少したこと、家庭や道路など雨水が浸透しない区域が増加したこと、用水の漏水を停止したことや地下水の汲み上げの影響などが考えられます。これら様々な原因が複合的に絡み合って渇水に至っています。

緊急にできることは限られていますが、市民としては、渇水に努めつつ、過去の渇水の情報を集めたり、今の渇水を写真等で記録したりします。また、屋根や庭に降った雨水を地下に戻すように努めます。野川沿いの公園で開催されるイベントなどで、雨ごいの儀式が行われることになっており、これを行動のスタートとします。行政としては、渇水原因の究明を緊急に進め、何らかの対策を検討します。今後、幅広く渇水で悩んでいるかの情報を集め、野川流域連絡会等で議論を交わし、対策につなげたいと考えています。

★8月27～29日：わんぱく夏まつり（都立武蔵野公園・くじら山下駅）で開催されます。
★野川流域連絡会のホームページに掲載します。
<http://www.kansetsu.metro.tokyo.jp/kaesen/ryuiki/05/nogawa-title.htm>

【問い合わせ先】野川流域連絡会 事務局 | 住所：東京都府中市原町1-2-7-1
電話：042-330-1845 FAX：042-369-3690
e-mail：a020021@netcom.metro.tokyo.jp

平成16年野川渇水時のチラシ

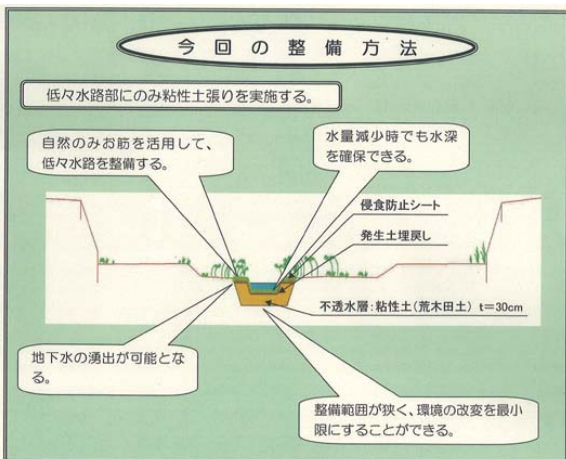
○水枯れ対策

河道を付け替えた箇所、河床へ水が浸透していることも水枯れの原因の一つだといわれています。そこで、短期的な取り組みとして、東京都では河床に粘性土を張るなどの浸透防止対策を行っています。

粘性土張りは、自然のお筋を利用して低々水路部のみに粘性土を張ることで、整備範囲が狭く、環境の改変を最小限にすることができること、水量減少時でも水深を確保できる、などの利点があります。

野川の粘性土張り整備は平成8年度より実施され、現在では、京王線より下流の約2.5km、武蔵野公園より上流の約1.9kmの区間で実施されており、今後も整備が続けられる予定です。

一方、中長期的には湧水を回復するための雨水浸透ますの増設、雨水の貯留、さらには恋ヶ窪用水を復元し、玉川上水、砂川用水を経由し、多摩川の河川水の導入が有効と考えています。



粘性土張り地区（前原小学校下流）

用水路再生プロジェクト

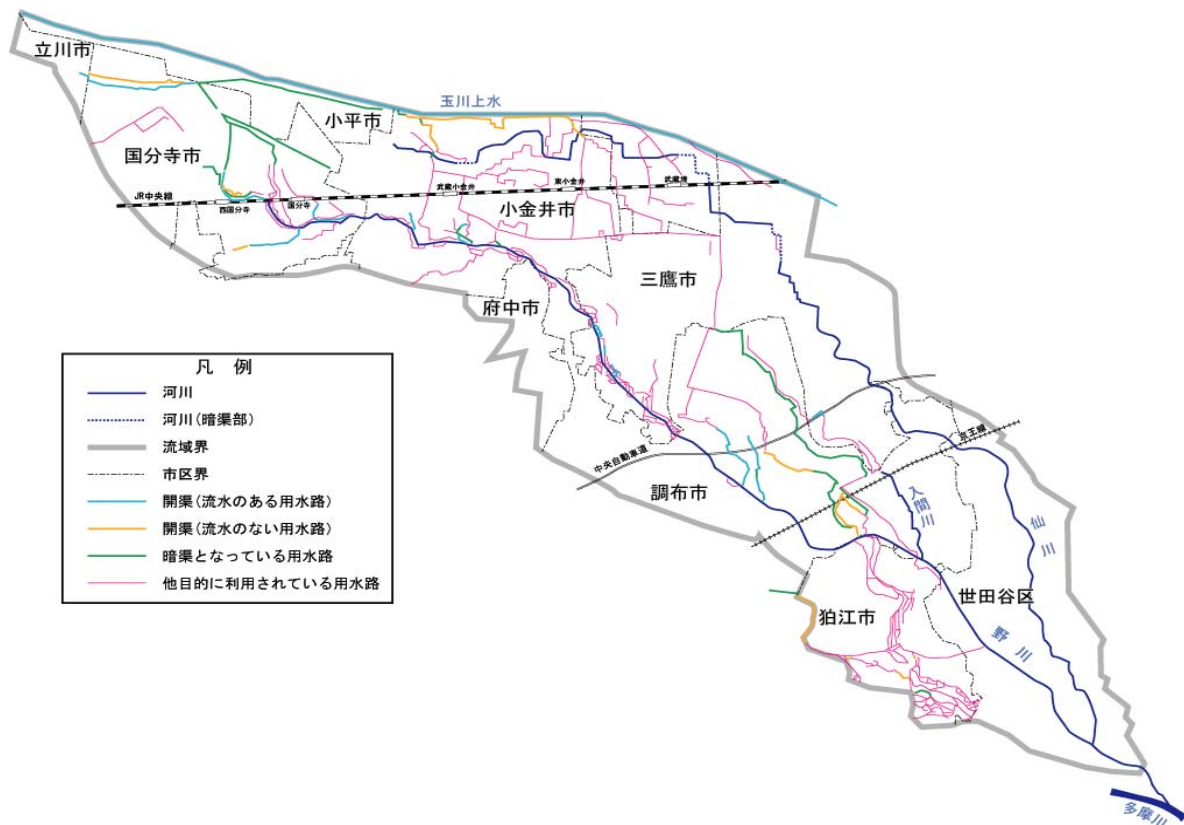
○ 活動記録

野川流域では、江戸時代から玉川上水の分水を利用して水田開発がすすめられてきました。しかし昭和30年代から進んだ流域の市街化の結果、水田は減少し、現在では、用水路を利用した水田は数えるほどしか残っておらず、用水路の多くは利用されていません。

これらの野川流域の用水路を再生するべく、野川流域連絡会では、先進事例の調査、用水路調査、関係自治体、京浜河川事務所へのヒアリング、提案などの活動を行っています。

用水路再生プロジェクトの近年の主な活動

日時	場所	内容
平成19年11月20日	国分寺市本町・南町地域センター	砂川および恋ヶ窪用水路の現地調査と意見交換
平成19年12月18日	小平市役所	先進事例としての小平市の状況調査、現地視察
平成20年1月29日	国分寺市本町・南町地域センター	ワークショップ方式による打ち合わせ
平成20年3月14日	北多摩南部建設事務所	国分寺市長あて提案書のまとめ作業
平成20年4月23日	国分寺市役所	国分寺市長へ提案書手交
平成20年5月22日	国分寺市役所	柴田国分寺副市長へ提案主旨の説明
平成20年7月29日	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所	用水路再生プロジェクトの取り組みについての協力を要請、意見交換
平成20年8月13日	国分寺市役所	柴田国分寺副市長へ地方の元気再生プランへの応募と恋ヶ窪水復元への早期取り組みを要請
平成20年11月19日	国分寺市まちづくりセンター	今後の取り組みについて打合せ
平成21年1月15日	北多摩南部建設事務所	活動のまとめ作成等、今後の取り組みについて打合せ
平成21年6月17日	現地、本多公民館	水環境分科会砂川用水路調査、今後の課題について検討
平成21年7月31日	北多摩南部建設事務所	活動のまとめ（小冊子）作成打合せ
平成21年11月19日	北多摩南部建設事務所	活動のまとめ（小冊子）作成打合せ
平成22年7月13日	国分寺市役所	国分寺市「緑の基本計画」見直しについて副市長と意見交換



野川流域の用水路の現況

野川の通信簿

○ 活動記録

野川流域在住の市民によって構成されている野川流域連絡会が主催し、地元の小学校・市民団体・地元住民及び行政との連携・協働によって、小金井市内を流れる野川において、『野川のちびっこ先生あつまれ！～小学生による「野川の通信簿」』を実施しています。

目的は、小学生が水質や植物などの野川の状況を通信簿として観察・記入することを通じて、野川に親しんでもらうこと。また、野川の環境を良くするために、この結果を市民の取り組みや自治体の施策に生かしていくことです。



<水質調査班の様子>



<水生生物採取班の様子>



<鳥の観察班の様子>



<植物観察班の様子>

現地観察用	1 / 2
野川のつうしんぼ (ちびっこ先生版)	
南小学校 6年 _____ 組 名前 _____	
観察日時: _____ 月 _____ 日 (_____)	
観察時間: _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分	
観察場所: _____	
天 気: _____ (きのうの天気: _____)	
気 温: _____ °C	
野川の水温: _____ °C	
さあ、川のいろいろなようすを観察してみよう!!	
1. 水のきれいさ (水質について)	
はじめに	
バックテストで調べてみよう!	
○どんな色になったかな? (_____)	
○シートと比べてみよう。きれいさの数は、 _____ ml/l (mg/l)	
① 水の色はどうですか?	
ア. すきとっている イ. すこしにごっている ウ. にごっている	
エ. その他 (_____)	
② 水においはどうですか?	
ア. においはない イ. 少しくさい ウ. くさい	
エ. その他 (_____)	
③ 川の底のようすはどうですか?	
ア. 大きな石 イ. 小さな石 ウ. 土 エ. コンクリート	
オ. その他 (_____)	
④ 川の底のきれいさはどうですか?	
ア. きれい イ. きたない ウ. ぬるぬるしている	
エ. その他 (_____)	

2 / 2
2. 水の流れはどうか? (水量について)
① たくさん水が流れていますか?
ア. 水がない イ. 水たまりがある ウ. ちよろちよろ (雑いすじのよう)
エ. さらさらと オ. ゆったりと カ. とうとうと
キ. その他 (_____)
② ①の答えのように思うのはなぜですか?
ア. 雨が降らないから イ. 雨が少し降ったから ウ. 雨がたくさん降ったから
エ. 水がたくさんわいているから オ. 水がすこししかわいていないから
カ. その他 (_____)
3. 生きものようすはどうか?
① 水の中にある生きものようすはどうですか?
ア. 観察できた魚 (_____)
イ. そのほか観察できた水の中の生きもの (_____)
② 魚のようすはどうですか?
ア. 観察できた魚 (_____)
③ 植物 (草、花、木) のようすはどうですか?
ア. 観察できた草 (_____)
イ. 観察できた花 (_____)
ウ. 観察できた木 (_____)
④ そのほかの生きもの (虫など) のようすはどうですか?
ア. 観察できた虫 (_____)
イ. 観察できたそのほかの生きもの (_____)

野川市民貯留プロジェクト

○ 活動記録

野川の水量確保、湧水保全、及び近年のゲリラ豪雨に代表される豪雨対策の一環として、野川流域における流域対策を推し進めるの当たり、これまで行政が施策として行ってきた流域貯留を市民自ら実践すべく、野川流域連絡会として実践方法を示し、貯留浸透施設の普及を図るためにどのような活動が出来るか検討し、先進事例の調査、現地調査、行政との連携などの活動を行っています。

野川市民貯留プロジェクトの近年の主な活動

日時	活動名称	内容
平成 22 年 7 月 22 日	第 1 回 水環境分科会	第 5 期活動方針について
平成 22 年 9 月 16 日	第 2 回 水環境分科会	区市の野川等に係わる政策説明
平成 22 年 10 月 15 日	第 3 回 水環境分科会	区市の野川等に係わる政策説明
平成 22 年 11 月 17 日	第 4 回 水環境分科会	第 5 期活動方針について
平成 22 年 12 月 20 日	第 5 回 水環境分科会	世田谷区豪雨対策について説明、意見交換 樋井川の取り組みについて、講演ビデオの上映
平成 23 年 1 月 26 日	第 6 回 水環境分科会	豪雨対策と多自然川づくりについて説明、意見交換
平成 23 年 2 月 15 日	第 7 回 水環境分科会	雨水の流域での貯留浸透について説明、意見交換
平成 23 年 6 月 29 日	第 8 回 水環境分科会	世田谷区鎌田地区フィールドワーク、世田谷区豪雨対策の現地視察、意見交換
平成 23 年 7 月 27 日	第 9 回 水環境分科会	世田谷区成城地区フィールドワーク、成城モデル地区の現地調査、意見交換
平成 23 年 9 月 9 日	第 10 回 水環境分科会	野川市民貯留プロジェクトの進め方について説明
平成 23 年 11 月 2 日	第 11 回 水環境分科会	成城モデル地区ワークショップ、雨水下水道の小流域の検討
平成 23 年 12 月 15 日	第 12 回 水環境分科会	成城モデル地区ワークショップ、東京都の計画の説明、意見交換
平成 24 年 1 月 25 日	第 13 回 水環境分科会	成城モデル地区ワークショップ、今後の進め方について意見交換
平成 24 年 2 月 22 日	第 14 回 水環境分科会	世田谷区成城地区フィールドワーク、成城モデル地区の現地調査、意見交換

活動の様子



第 8 回水環境分科会フィールドワーク



第 10 回水環境分科会



第 12 回水環境分科会

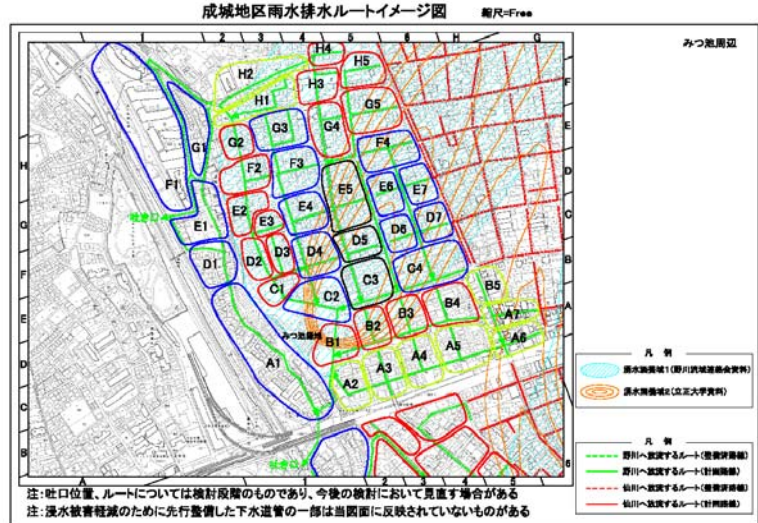
第 14 回水環境分科会フィールドワーク

○ 雨水の下水道計画図（小流域）

現在、成城地区において整備が進められている雨水排水ルートを手形図に記入した図面。野川へと放流するルートは緑色で表示、仙川へと放流するルートは赤線に表示した。整備済み路線は破線、計画路線は実線で記入。

みつ池の涵養域とされる範囲も併せて記入した。

排水ルートを元に、グループ分けを行い、小流域を設定しました。



○ 雨水活用ツールチェックリスト（成城地区）

設定した小流域のうち、モデル地区を選定し、実際に現地を調査しました。

選定した小流域毎に代表となる宅地において、現状の貯留浸透施設の設置状況及び、今後設置が可能な施設の有無を確認しました。

また、敷地の規模、敷地に占める建物や庭、駐車場の割合を算定し、雨水の流出量を算出しました。

雨水活用ツールチェックリスト(成城地区) 野川流域連絡会水環境分科会

調査方法: 歩きながら各家ごとに「世田谷ダム」として実践できそうな対策をチェックする
 ・小型タンクの設置の有無、及び設置出来そうか ・大型タンクの設置の有無、及び設置出来そうか ・庭や駐車場に貯留槽の埋設の有無、及び貯留槽は埋設出来そうか
 ・浸透槽、浸透トレンチの設置の有無、及び設置出来そうか ・雨天時のみ池になる雨池や、ビオトープ池の有無、及び設置出来そうか
 ・浸透地は土の面や芝生などの有無 ・流出止は敷地の境界で流出対策の有無、及び設置出来そうか ・屋上緑化の有無、及び緑化出来そうか

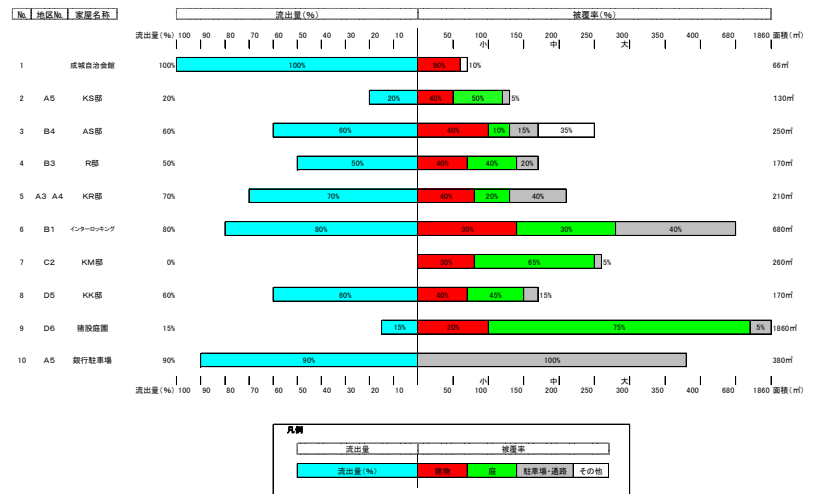
NO	地区NO	家屋名称	敷地の規模	被覆率				流出量	貯留施設					浸透施設									
				建物	庭	駐車場	道路		小型タンク	大型タンク	貯留槽	貯留槽	ビオトープ池	浸透槽	浸透トレンチ	雨池	浸透地	流出止	屋上緑化				
1		成城自治会館	小	90%	0%	0%	100%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
2	A5	KS部	中	40%	50%	5%	20%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
3	B4	AS部	中	40%	10%	15%	60%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4	B3	R部	中	40%	40%	20%	50%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5	A3 A4	KR部	中	40%	20%	40%	70%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6	B1	インターロッキング駐車場	大	30%	30%	40%	80%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
7	C2	KM部	中	30%	65%	5%	0%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
8	D5	KK部	中	40%	45%	15%	60%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
9	D6	猪股庭園	大	20%	75%	5%	15%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
10	A5	銀行駐車場	中	0%	0%	100%	90%	現状	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○ 宅地における被覆率及び流出量（成城地区）

雨水活用ツールチェックリストにて算出した宅地における被覆率と流出量をグラフ化しました。

中心より左側の水色の棒グラフが流出量を表し、右側の棒グラフで被覆率を表しています。被覆率は赤色が建物、緑色が庭、グレーが駐車場・通路、白色がその他となっています。

今後、下水道小流域単位ごとに同様の調査を行い、流出の現状を把握し、対策を練って行きます。



情報発信

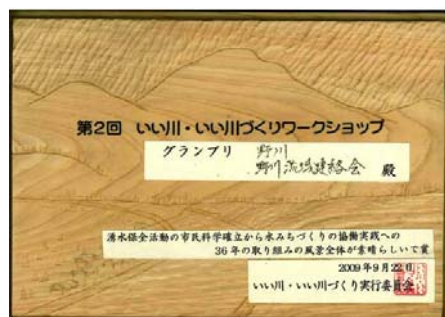
○韓国「川の日」安東大会への招待

平成 22年8月 27日から29日に開催された韓国「川の日」安東大会に参加しました。

韓国「川の日」大会は、水環境に関わる日韓交流が2000年から始まり、韓国NGOが、日本の「川の日」ワークショップに参加した事がきっかけとなり、2002年より開催されており、日本のグランプリほか入賞団体も招待され、発表及び交流を深めています。

毎年、韓国内の異なる都市で開催しており、開催誘致活動も活発に行われています。様々な活動主体による水辺環境の保全活動事例を集めて、公開発表、公開討論、公開審査という方式を通じて優秀な事例を選考する大会となっています。

野川流域連絡会の「野川の奇蹟 ～川霧のたつ東京の川～」が「第2回いい川・いい川づくりワークショップ」のグランプリ（全国 1 位）を受賞したことから招待され、野川流域連絡会を代表して、座長以下3名が参加しました。



○ホームページの紹介

野川流域連絡会では、ホームページでも情報発信を行っています。

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/05/nogawa-title.htm>

東京都建設局では、都内の河川で開いている流域連絡会の活動をホームページで紹介しています。

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kasen/ryuiki/index.html>

野川流域連絡会

生命の歌声が聞こえる水と緑の薫る川

【谷戸橋下流 狛江市】 【巖上流部 国分寺市】

野川は、国分寺市東ヶ窪を源とし、武蔵野台地の端部、国分寺崖線に沿って東南の方向に流れ、小金井市、三鷹市、調布市を貫流し、狛江市東野川で入間川を、世田谷区鎌田で仙川を合流して、世田谷区玉川で多摩川に合流する、延長20.23km、流域面積69.6平方キロメートルの一級河川です。
水辺に近づきやすい川づくりを基本に、川沿いの武蔵野公園や野川公園と一体的に整備するなど、緑豊かな自然環境をつくりだしています。都市を流れる河川の中では、四季折々の自然が息づくおおいのある川として多くの人々に親しまれています。
「野川流域連絡会」は平成12年8月30日に設置され、現在第4期目として活動しています。委員(公募による都民委員と団体委員33名及び行政委員20名の併せて53名)が互いの情報を共有しながら、意見交換、提案、勉強会、自然観察会などを行っています。

表紙の写真について



- ①神明橋付近 (平成 23 年 7 月 27 日)
- ②流域連絡会全体会
(平成 23 年 6 月 1 日)
- ③流域連絡会分科会
(平成 23 年 9 月 9 日)
- ④成城モデル地区フィールドワーク
(平成 24 年 2 月 22 日)

問合せ先

東京都建設局 北多摩南部建設事務所

工事第二課 工務係

住所 東京都府中市緑町 1-27-1

電話 042-330-1845

FAX 042-369-3890

e-mail s0200212@section.metro.tokyo.jp